

第5学年家庭科学学習指導案

指導者 教諭 長曾 亜希子

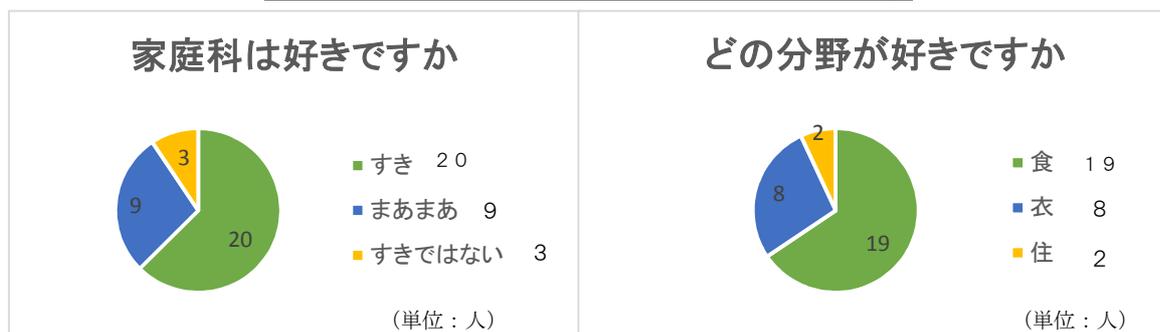
1 題材名 寒い季節を快適に
内容 C (1) ア (2) イ 内容 D (2) ア

2 題材の設定理由

(1) 児童観

本学級の児童は、男女が仲よく協力して学校生活を送っている。第5学年から始まった家庭科においては、家庭生活をよりよくしようという意欲を持ち、生活の中で無意識に行ってきた行動を意識化させることで生活の中の新たな価値に気付くことができるようになりつつある。夏季休業中には、1学期に学習したゆで野菜のサラダの家庭実践を通し、家族を喜ばせ家族の一員として生活をよりよくできたという自負を持った児童も多い。家族のコメント欄には温かい励ましのコメントや継続して調理を行っている様子が垣間見えた。児童は1年生のときに震災を経験し、エネルギー問題がクローズアップされる中で成長してきた。4年生ではヘチマを育て、緑のカーテンとして活用する学習も行ってきた。「エコ・環境」に対する関心を持つ児童は少なくない。

本題材に関わる実態調査の結果は次の通りである。



家庭科については、9割の児童が「好き」と答えている。関心も高く、実際に児童の忘れ物も少ない。また、消費にかかわる内容を第5学年当初に設定し、他の3つの内容とのかかわりが深まり、かつ関連付けた指導が系統的に行われるような年間指導計画の作成を行い、学習を進めている。その成果は児童の日常生活や校外学習の場面でも少しずつ発揮されつつある。例として挙げると、「ノートを買いに出かけたとき、お店で選ぶ場面で家庭科の学習を思い出した。情報を整理して、比べて納得できるものを買うことができた」という内容を日記に書いた児童が複数名存在することから、学習したことを日常生活で意識的に活用している様子が見える。また、林間学校でのおみやげを買う場面でも消費にかかわる内容を生かしてしっかりと計画を立て、お金を大切に使い、家族の喜ぶおみやげを選んで買ったりする場面が多く見られた。『はじめてみよう ソーイング』では、小物入れづくりに真剣に取り組み、「作ったものを長く使うために丈夫に作りたい」「世界で一つだけのオリジナルを好みで作る」と言った発言が見られ、市販のものや流行を追うのではなく大事に長く使うという意識の高まりを感じた。第5学年当初に学習した成果がここに現れている。

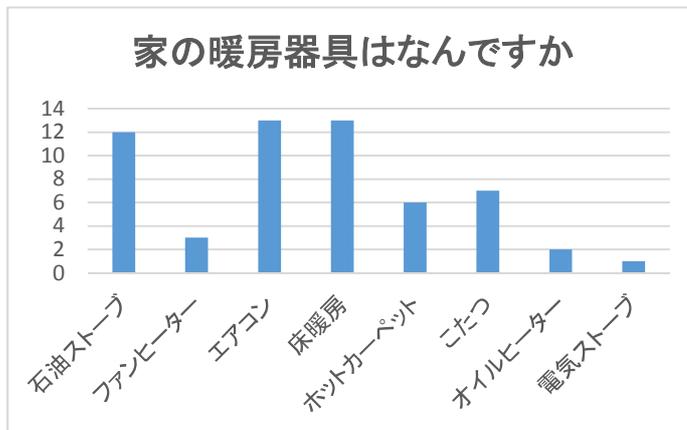
家庭科が「好きではない」と答えた児童に理由を聞くと「針と糸が上手に使いえなかった」「家であまりやらせてもらえないから」という理由が挙げられた。手先が不器用であったり、また家庭での実践が繰り返し行いにくい児童にとっては苦手意識を感じやすい教科であるといえる。そのためにも、保護者への連絡や家庭科学習の内容をシラバスや学級通信で家庭に発信し、家庭との連携をより一層図ることに今後も心がけていく。

どの分野が好きかという問いに対し児童の興味関心が高いのは、やはり「食」の分野である。食は児童にとって最も身近でかかわりが深いためであろう。次いで衣、住となるが、住まいの学習は身の回りの片づけを行った

だけであり、今回の学習が本格的な住まいの学習では初めてとなるため、イメージがしにくかったのではないかと推測される。



この時期、寒くなってきて暖かい服装について自分なりに考えたり、工夫したりしている様子が見られる。住まいに関しても同様であり、暖かくしようと工夫している。しかし、特に衣生活や住生活に意識をせずに生活をしている児童も学級の中で 1/3 程度存在する。今回の学習で「暖かく着る、住まう工夫」について「なぜそうするのだろう」という疑問を持たせ、科学的な視点や実践的、体験的活動を通して思考し、客観的視点を持つ行為や概念に気付かせ、生活改善につなげていく必要がある。



重複回答可能であるため、併用して利用している器具が多いと思われる。もっとも多いのは「床暖房」「エアコン」といった一般的に空気の汚れが少ないとされる暖房器具であるが、次いで「石油ストーブ」も多く利用されていることから、換気について学習することが重要であると考察される。



「エコロジー」や「省エネ」という言葉自体は児童の生活の中でよく耳にし、知られている言葉である。また、「省エネ」を意識して暮らしている児童が 2/3 も存在するのは、3.11 の震災以降に育ってきた児童であるからとも言える。現行の学習指導要領における第 1 章 総説 3 家庭科改訂の要点 (2) 内容について、オ 「主体的に生きる消費者をはぐくむ視点の重視」の中で『持続可能な社会の構築など社会の変化に対応して、主体的に生きる消費者としての態度を育成する視点から「内容 D 身近な消費生活と環境」を設定した』という一文がある。「持続可能な社会の構築」に向け、環境に配慮した暮らしが求められている現在、環境に配慮した暮らしとはどのようなものかを理解し、生活の中で実践していくことが第一歩となるのではないだろうか。また、児童は様々な情報に囲まれて生活している。生活の中で溢れる情報を取捨選択し、家庭生活に活用していく技能も必要であると考えられる。そのため、普段から自主学習において生活にかかわる情報収集も必要に応じて行っているところ

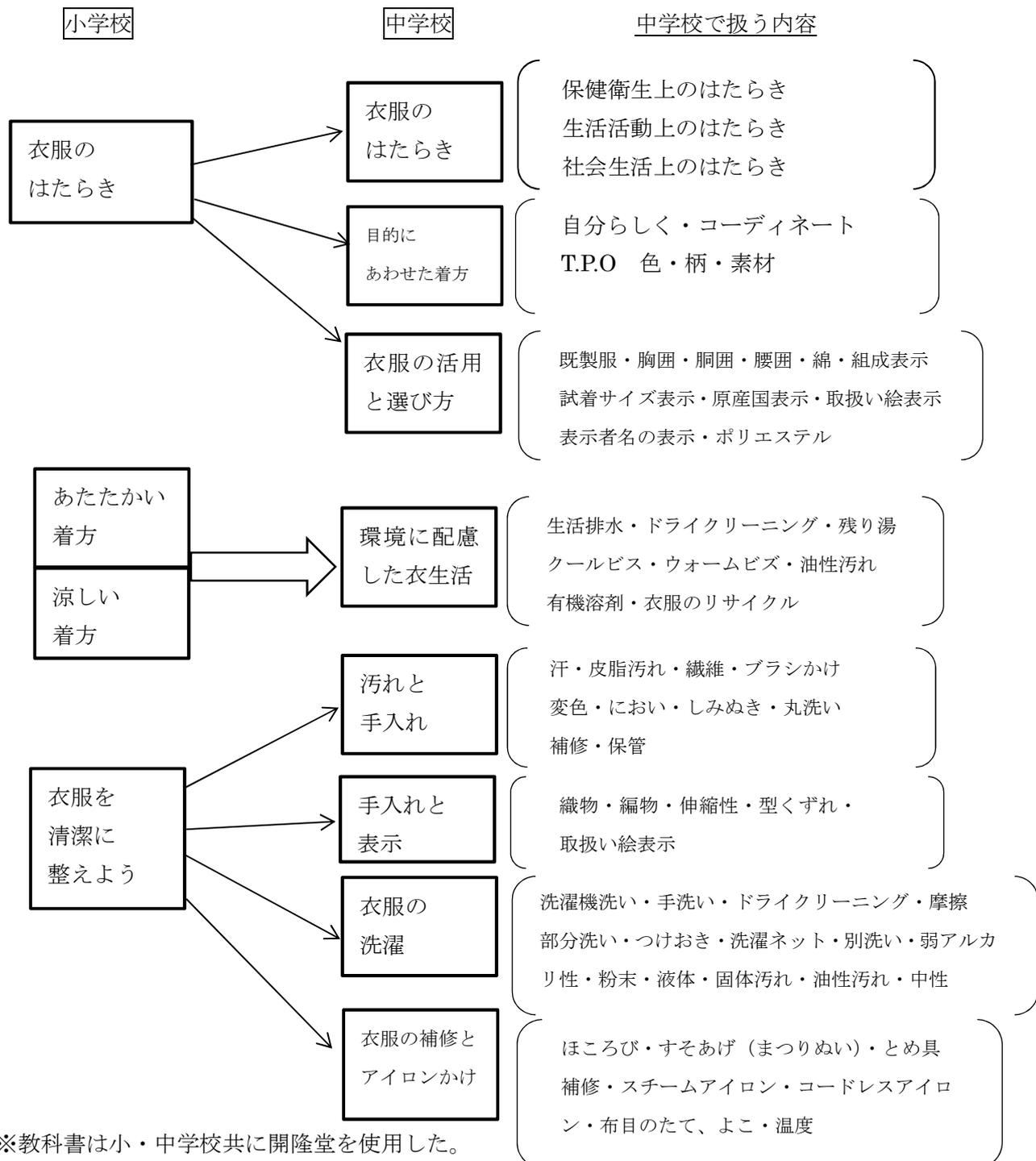
ろである。

(2) 題材観

本題材は、日常着の着方や住まい方に関心をもち、季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、気温や季節の変化に応じた衣服の着方や快適な住まい方を理解するとともに、快適な着方や住まい方を考え工夫する能力を育てることをねらいとしている。学習指導要領の内容 C (1) ア、および (2) イに内容 D (2) アを関連づけて学習計画を立てている。

イに内容 D (2) アを関連づけて学習計画を立てている理由の一つに、小学校における内容 C で扱う住居に関する内容が、中学校では既習事項の発展として内容 D の学習内容に組み入れられていることをあげたい。

また、小学校と中学校の内容 C 「快適な衣服と住まい」について5年間を見通し、系統性、連続性を持って指導することができれば、さらなる定着を図ることができるであろうと考え、教科書の内容から、系統性、連続性を図表化してみた。なお、以下の図表は本時かかわる「着方」に限定している。



※教科書は小・中学校共に開隆堂を使用した。

四季の変化に恵まれた日本では、古来より生活を工夫する知恵を持ちながら、健康で快適な生活を営んできた。児童がこれまで無意識なうちに過ごしてきた、自分の冬の生活について関心を持たせ、改めて「あたたかい着方」を見つめ、この学びをきっかけにして季節の変化に応じた生活の仕方の課題を明確にし、その解決を目指して自分なりに工夫して快適に過ごそうとする態度を育てていきたい。また、健康的で快適な生活を送ることに加え、今日的な課題である「持続可能な社会」への意識や環境問題に関する配慮が不可欠であり、自然を生かしつつ効果的な着方を工夫することについても十分に考えさせたいと考え、本題材を設定した。

(3) 指導観

衣・住生活に関する学習は、これまでの調理や裁縫などの学習に比べて、児童の関心が低いようである。また、各家庭での住まい方、衣服に対する考え方は様々で、プライバシーの問題を考慮しなければならないこともあり、生活の工夫を調べて、発表するなどの知識伝達型学習になってしまいがちである。そこで、自らの生活を取り巻く環境を快適に整えようとする意欲を高め、実感を伴って理解することができるように、指導のポイントを次の4点に絞った。

1点目は、「学校」という身近な環境を快適な空間にするためには何が必要かを考え、課題をもたせる学習展開になるように工夫することである。例えば「教室の快適度チェック」「日光の力を利用して暖かくする工夫」など、学校での共通体験を通して、これまで意識することの少なかった住まい方への関心を高めたい。また小さな室内模型を教具として活用したい。広い室内を、模型を使った児童の扱いやすい大きさに再現することで、室内の暖まり方の違いや換気実験が行いやすくなり、視覚や触覚など五感で快適さを実感させることができると考える。

2点目は、自然を生かした住まい方の大切さが分かるようにすることである。今は、昔に比べて住宅の機密性が高く、冷暖房や照明機器も豊富に利用することができる。このような生活は便利である一方で、今後も便利さだけを追及すると、環境に配慮した生活からかけ離れていく可能性もあるのではないだろうか。未来の日本社会を担う子どもたちには、昔と今の住まいを比べたり、日光や風など自然の力を効果的に活用したりする方法を工夫させたりすることで、健康への視点と持続可能な社会の構築という視点から、自然を生かした住まい方の大切さを理解できるようにさせたい。

3点目は、導入の場面において共通体験を設定することである。ここから、気付きや感動が生じ、主体的に課題に取り組もうとする学習意欲の高まりが期待でき、またプライバシーへの配慮をすることができる。例えば、「教室での採光実験」「暖房器具の配置による暖まり方の違い体験」「模型を使った冬の室内の再現実験」「衣服の着方」などである。児童にとって身近な場所や現象を例に挙げたり、道具を使ったり、ICTを有効的に活用し、科学的に分析する体験を取り入れることによって、住まい、衣生活を科学的に見つめる目を養わせたい。

4点目は、思考力をより一層高めるために、思考過程を明らかにできる思考ツールを使った授業の実践である。家庭科で知識、技能を習得する場面では、日常生活の中で「あたりまえ」に行っている自らの主観に基づいた行為に対し「なぜそうするのか」という疑問を持たせ、実践的、体験的活動を通して思考し、客観的視点を持つ行為や概念に気付かせるような活動を教師が構成する必要がある。また、学習した内容を生活の中で活用する場面では、思考力・判断力・表現力も問われる。学習において思考過程を明らかにする思考ツールの活用を行うことにより知識や情報の再構成をし、そこにある傾向や偏り、関係性などを見出すことで思考力をあげる一助としたい。思考ツールを使う利点は、児童の思考過程や持っている情報を可視化したり、操作化したり、言語活動（話し合い）の方向づけをしやすくなる点である。思考することは個人の内面的活動であり、表面化しにくい。思考ツールにより内面的活動を表出させることで、それを基に言語活動がより一層活発になる。思考ツールを利用するには、さらに言語活動も併せて行う必要がある。思考ツールを基に言語活動を行えば、多面的な視点から検討し、言語化することでより考えが鮮明になる。また、言語活動の中で新たな価値観の獲得をすることも可能となる。思考ツールを利用し、思考力を高める工夫を行いたい。

3 題材の目標

- ・季節の変化に合わせた生活の仕方に関心を持ち、快適な冬の生活について考えたり、整えたりする。
- ・自分の生活と身近な環境とのかかわりに関心を持ち、環境に配慮した生活をしようとする
【家庭生活への関心・意欲・態度】
- ・冬の生活について課題を見つけ、その解決をめざして考えたり、自分なりに工夫したりする。
【生活を創意工夫する能力】
- ・快適な冬の生活の仕方について理解する。
【家庭生活についての知識・理解】

4 題材の指導計画（6時間扱い）

- | | |
|--------------------|-----------------|
| (1) 冬のくらしをみつめよう | 1時間 |
| (2) あたたかく 明るく暮らそう | 3時間 |
| (3) あたたかい着方をくふうしよう | 1時間（本時） |
| (4) 快適な冬の暮らしを实践しよう | 1時間（冬季休業が明けてから） |

5 題材構成（全6時間）

小題材名	時間	目標	内容項目	キーワード
冬のくらしを みつめよう	1	自分の生活をふり返りながら、日本の冬をあたたかく快適に過ごすための住まい方に関心を持つ。	内容 C (2) イ	四季の変化 着方 住まい方 気持ちよく過ごす くふう 年間の気温の変化
あたたかく 明るく暮らそう	2	採光の仕方を見直し、照明器具の効果的な使い方を考える。	内容 C (2) イ	採光 照明 ルクス 照度計
	3	日光の働きについて調べ、日光を採り入れるなど、自然を生活にいかす方法やそのよさを理解する。	内容 C (2) イ 内容 D (2) ア	日光 熱 殺菌 光 自然の力 上手に利用
	4	暖房器具の安全で効果的な使い方を理解する。	内容 C (1) イ	暖房器具 換気 暖房器具の特徴
あたたかい着方を くふうしよう	⑤	気温や季節の変化に応じた着方や寒さなどへの対処の仕方を理解する。 寒さを防ぐ暖かい衣服の着方について考え、環境を配慮して自分なりに工夫する。	内容 C (2) ア 内容 D (2) ア	衣服の形 布の種類 重ね着 あせ よごれ 衛生的な着方 調節
快適な冬のくらしを 実践しよう	6	エコで快適暖かな冬の暮らしの实践を発表しあう。	内容 C (2) ア イ 内容 D (2) ア	自然の力 エネルギーの節約

6 題材の評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
季節の変化に合わせた生活の仕方に関心を持ち、快適な冬に生活について考えようとしている。(C) 自分の生活と身近な環境とのかかわりに関心を持ち環境に配慮した生活をしようとしている。(D)	快適な冬生活の仕方について課題を見つけ、その解決をめざして自分なりに考えたり、工夫したりしている。(C)		快適な冬の生活の仕方について理解している。 (C) ・自然を生かした住まい方 ・寒さへの対処の仕方 ・換気の仕方 ・採光の工夫

7 題材の指導と評価規準（全6時間扱い）

小題材名	時間	○目標 ・学習活動	評価規準（評価の方法）			
			関・意・態	創意工夫	技能	知識・理解
冬のくらしをみつめよう	1	○自分の生活をふり返りながら、日本の冬をあたたく快適に過ごすための住まい方に関心を持つ。 ・映像を見ながら、冬の暖かな生活の仕方について考える。	冬の快適な暮らし方の工夫について考えようとしている。 (ワークシート) (発言)			
あたたかく、明るく暮らそう	2	○採光の仕方を見直し、照明器具の効果的な使い方を考える。 ・照度計を使い、教室内の明るさ調べをする。 ・目の健康に必要な明るさやエコで効果的な照明器具の使い方を調べる。	環境に配慮した照明の使い方について考えようとしている。 (ワークシート) (発言)			採光の工夫と目の健康を考えた照明の仕方について理解している。 (ワークシート) (発言)
	3	○日光の働きについて調べ、日光を採り入れるなど、自然を生活に活かす方法やそのよさを理解する。 ・生活の中で行っている日光の利用の仕方から、その働きについて話し合う。 ・日光の働きを確かめる。 ・日光をよりよく採り入れるための工夫を考える。				日光を採り入れるなど、自然を生活に活かす方法やそのよさを理解している。 (ワークシート)

	4	○暖房器具の安全で効果的な使い方を理解する。 ・暖房の種類や特徴について整理する。 ・換気の必要性やエコで効果的な暖房器具の使い方を調べる。	環境に配慮した暖房の使い方について考えようとしている。 (ワークシート) (発言)			暖房器具の特徴や換気の必要性について理解している。 (ワークシート) (ペーパーテスト)
あたたかい着方を工夫しよう	⑤ 本時	○気温や季節の変化に応じた着方や寒さなどへの対処の仕方を理解する。 ○寒さを防ぐ暖かい衣服の着方について考えたり、環境を配慮して自分なりに工夫したりする。 ・全員が共通の条件の中で、暖かい着方の工夫のポイントを考える。 ・暖かい着方のポイントについて実験で確認し、暖かくエコな着方を考える。		寒さを防ぐ暖かい衣服の着方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (発言) (ワークシート)		気温や季節の変化に応じた着方や寒さへの対処の仕方を理解している。 (ワークシート)
		冬休み 家庭実践				
	6	○エコで快適暖かな冬の暮らしの実践を発表しあう。 ・冬休みの実践を各自で発表しあう。 ・友だちの発表を聞いて、これからの実践に活かそうな事などを互いに学びあう。 ・さらに行ってみたいことをまとめ生活に活かす。	着方や住まい方に関心を持ち、冬の快適な生活への実践意欲を高めている。 (家庭実践シート) (行動観察) (発言)	冬の衣生活、住生活を見直して課題を見つけ、快適な着方や住まい方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (ワークシート)		

8 本時の学習指導 (本時 5/6 時)

(1) 目標

- ・寒さを防ぐ暖かい衣服の着方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。

＜生活を創意工夫する能力＞

- ・気温や季節の変化に応じた着方や寒さへの対処の仕方を理解している。＜家庭生活についての知識・理解＞

4 個人で選んだ着方を基に、グループで話し合う。	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合うときには、選んだ理由を明確に話すように促す。 ・話し合いで意見が変わったら、変更してもよいことを伝える。 			
5 暖かい着方のポイントについて、実験で確認する。	6分	<ul style="list-style-type: none"> ・着方のポイントを実験によって確認できるようにする。 ・保温性の実験について、映像化しておき、大型 TV に映す。 			
6 暖かい着方について考える。	6分	<ul style="list-style-type: none"> ・暖かい着方の工夫のポイントを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 熱を逃さない形、着方。 (2) 冷たい風を通さない上着 (3) 熱を吸収する色 ・暖かい着方はエコにつながっていることを押さえさせる。 	大型 TV パワーポイント		
7 わかったことや次時に活かしたいことをふり返し、発表する。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習をふり返し、自己評価させる。 ・わかったことを学習感想にまとめさせる。 ・本時に学習したことが、次時の学習にも活かせることを意識付けしておく。 <div data-bbox="451 1115 1313 1261" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○気温や季節の変化に応じた着方や寒さへの対処の仕方を理解している。 <家庭生活についての知識・理解> (ワークシート)</p> </div> <table border="1" data-bbox="451 1261 1313 1507" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>おおむね満足できる状況 (B)</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で理解した寒さへの対処の仕方を理解して記入している。 【Cの児童に対する手立て】 ・パワーポイントのまとめ画面をもう一度見せる。 </td> </tr> </table>	<p>おおむね満足できる状況 (B)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で理解した寒さへの対処の仕方を理解して記入している。 【Cの児童に対する手立て】 ・パワーポイントのまとめ画面をもう一度見せる。 	ふり返しカード
<p>おおむね満足できる状況 (B)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で理解した寒さへの対処の仕方を理解して記入している。 【Cの児童に対する手立て】 ・パワーポイントのまとめ画面をもう一度見せる。 				
8 次時の予告をする。	1分	<ul style="list-style-type: none"> ・次時では、冬季休業明けにそれぞれの実践報告会を行うことを知らせる。 			

9 備考 在籍児童数 32名

10 使用する思考ツール (PMI)

よいところ	よくないところ	どちらかなやんだところ